

平成10年の学習指導要領において「総合的な学習の時間」の中での英語活動が可能となり、平成19年度の全国調査では英語活動を実施している学校が9割を超えました。「総合的な学習の時間」で行われる英語活動は、実施をするかどうかを含め各学校に任されていることから、目標や活動内容、開始学年や実施時間数などに学校間による格差が生じていました。社会のグローバル化がますます進展する中でコミュニケーション能力の養成が不可欠な時代となり、教育の機会均等の確保や中学校との接続といった観点からも、小学校における英語教育の方向性の議論が重ねられ、平成23年実施の学習指導要領において、小学5・6年生において週1時間割り当て必修とすることになりました。

特集
教育現場を訪問

英語の授業は 小学校から はじまっています

市でも、35の小学校でALT（※左ページ参照）による年間20コマの外国語活動が実施されています。

今回の特集ではALTによる実際の英語の授業の様子を紹介します。

問学校教育課②5204

目次

- 02 特集 教育現場を訪問
- 04 市政 PICK-UP
- 06 すまいる
- 07 まちの話題
- 10 健康教室・食推さんの食べてみんさいおいしいけえ
- 11 くらしの情報
- 16 おでかけ情報
- 18 みんなの写真館・市長夢日記

表紙の写真



教育現場を訪問

国語や算数と同じように、小学5・6年生での英語の授業が必修化となり、英語の指導体制が日々整備されていく今日、実際に現場ではどのような授業が行われているのでしょうか。平田小学校を訪問しました。



平田小学校 6 年 4 組の授業。
A L T が英語でする質問に、児童は積極的に手を挙げます。

実践的な授業を支える“A L T”

A L T (Assistant Language Teacher) とは、外国語を母国語とする外国語指導助手のことです。

小学校や中学校、高等学校で、児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的として担当教員の指導の下、授業を補助します。

“スマイル”が たくさん溢れる 英語の時間に！

小学生にとって、初めは英語が分からない、むずかしいのが当たり前です。失敗しても何度も何度もトライして、児童に笑顔で楽しく、英語に親しんでもらうような授業になるよう心掛けています。



アーリーン タマリ
Arlyn Tamari 先生
(平田小 A L T)

イングリッシュルームで行われる、英語の歌に合わせた音遊びや覚えた単語を答えていくクイズなどのゲーム形式の授業に、児童たちは大きな声で発言し意欲的に取り組んでいました。



市においても英語教育の在り方を研究しています。英語教育のより早い開始の必要性が議論されていますが、市において、小学生の柔軟な適応力を生かすことによる英語力の向上やグローバル化の進展への対応のため、低学年から英語教育を試行する研究を始めています。現在は市内の一部の学校に低学年から英語の授業を取り入れ、その効果や課題について検証しています。その結果をもとに A L T などの外部人材の活用の方、教材の利用方法などについての研究を進めるとともに、対象校を増やしていきながら、これからのよりよい英語教育の在り方について体制整備を推進していくこととしています。

早期の 英語環境づくり

川尻 美沙 先生
(平田小 6 年 4 組担任)



小学生のうちから英語と触れ合う習慣を作ることで、外国人に対して身構えてしまうのではなく「Hello」と気楽にコミュニケーションが取れるようになってほしいです。